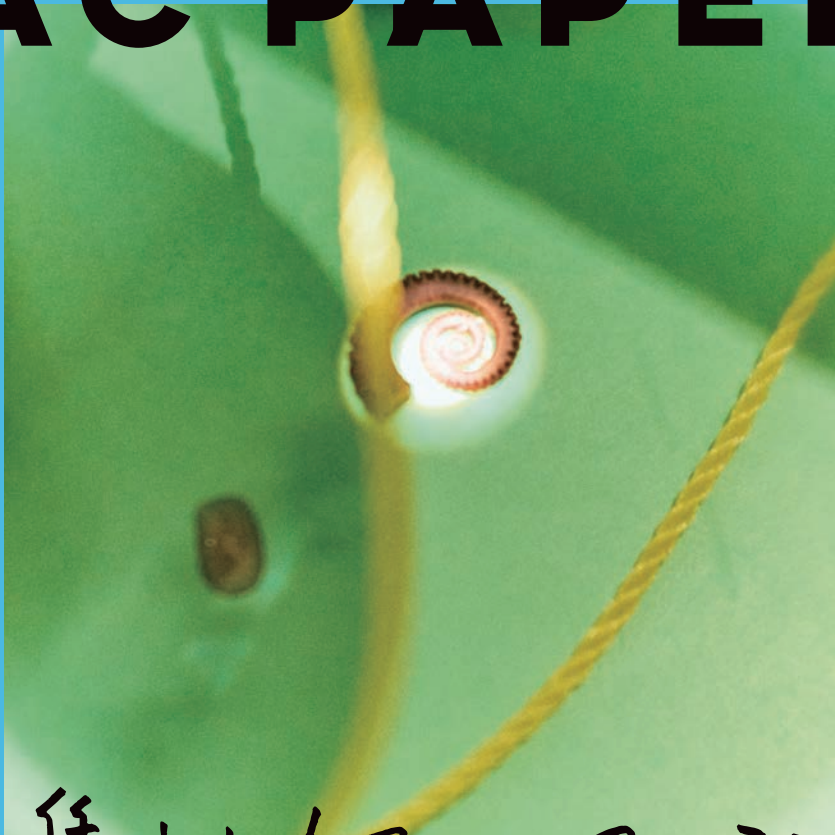


AC PAPER

www.a-crafts.co.jp

エー・シー・ペーパー

ISSUE
09



特集

集まれ! “3-バン3-ミング”

集まれ!

「アーバンファーマーミング」

HAPPYなオルタナティブをあなたに

AC PAPER

空き地や公園、ビルの屋上、共同住宅の敷地内、道端の小さなプランター… 都市の中で野菜や植物を育てる「アーバンファーマーミング」。身近で野菜を供給する役割の他にも、都市で緑を提供する場として、コミュニティ交流を促す公園として、子どもの食育の場として…などいろんな役割があります。そしてもちろん、収穫した野菜やフルーツはおいしく食べられる! 私たちの身近な都市に、小さな農業の拠点や活動が増えてきました。今回は都市の農業に関わる人々取材しました。

CONTENTS

特集 集まれ! アーバンファーマーミング

- ・CASE 01 どんどん集う、みんなで作る — 02
- ・CASE 02 都市のスキマに“農”を仕掛ける — 05
- ・CASE 03 ようこそ、農機具小屋の世界へ — 11

未来妄想 vol.4 — 15

“農”が人を惹きつける

沖縄通信 — 17

すぐそこにある島バナナ

CASE 01 どんどん集う、みんなで作る

アートの街として近年知られている大阪・北加賀屋。住宅街の真ん中に突然現れる緑豊かなその場所は、利用者みんなで作り上げる農園として注目を集めています。その名も「みんなのうえん」。作物にはトマトからお米、さらには醤油に、自作のピザ窯で焼いた焼きたてピザまで!? 詳しく知るべく、「みんなのうえん」を運営している一般社団法人グッドラックの金田さんにインタビューを行いました。

「そもそも『農業をやろう』というつもりで始めたプロジェクトではなかったんです。大学時代の同級生とNPO法人を立ち上げて、拠点をどこにしようかと探していたのが始まりでした。縁があって北加賀屋に来たものの、すぐに仕事があるわけでもなく…。ブラブラと歩きながら街を観察しているうちに、道路にはみ出す勢いで植木鉢を置いているなどガーデニングしている家が多いことに気づき、『みんなの庭みたいな場所があったら面白いのでは?』とアイデアが浮かんだんです。さらに『空き地は駐車場にし



かならないから活用が難しい』という話を耳に挟み、コミュニティのハブとなるような農園のアイデアが具体化していきました。でも、自分たちには農業の知識なんかまったくなかった。なので最初から農家や専門家の方にアドバ

イスをいただくという形をとっています」

「みんなのうえん」のスタートは10年前。シェアの概念が現在ほど浸透していなかったこともあり、反発も少なかったといいます。

← 一般社団法人グッドラックの金田さん。
農園には思い思いの野菜が植えられています。



「北加賀屋は町内会が活発な場所です。『畑をシェアする』という概念が最初はやや理解されなかったのですが、やり始めると『いいことやと思うから頑張るよ』と理解してくださいました。幸い、現在に至るまで大きなトラブルもなく、長い人では8年近く続けてくださっている利用者さんもいます。」

長く続けて安定してきたと話す金田さん。今では、利用者同士の繋がりも増えているようで…。

『『みんなのうえん』でのメンバーでレンコン掘りに出かけ

ていった際に会った二人が結婚したり、また別のカップルがここで結婚式を挙げたこともあります。女性メンバー数人が仲良くなって、別の場所でも畑を借りて本格的にゴマの栽培を始めたりだとか…。大人になってから仲の良い友達というのはできにくいと思うので、ここでそういった関係性が生まれているのは嬉しいです」

ところで、醤油小屋やピザ窯が気になるんですが!?

「メンバーのひとりが『味噌は家ででもできるし作り飽きた。醤油を作ってみたい』と言い出したのが始まりで(笑)。たまたま三重の醤油職人の方と知り合うことができたので、



相談しながら始めました。醤油作りには小屋が必要というので、みんなで作ったり…。ここで作る自家製の醤油は旨味が強くてとても美味しいんですよ。



ピザ窯もメンバーの思いつきです。窯に使う耐火レンガは高価なので諦めかけていたのですが、偶然『耐火レンガを新品で貰える』という人が現れて(笑)。それで作っちゃいました。知識・技術的に足りないところはプロの力を借りますが、他はほとんど自分たちで賄っています。メンバーの行動力が本当にすごいんです」



雨の日に歩きにくいからと、道までみんなで作ったという金田さん。他にもメンバーの発案で、田んぼ作りや献立部、ビオトープ作りなど、農園での活動はバラエティ豊かに増えています。

『『献立部』は普段家で作らないような料理をみんなで作るという試みです。ケータリングの仕事はそこから派生しました。醤油作りもそうですが、

その人が諦めかけていた小さな夢をサポートするということをやりたいなと。普通に暮らしているだけでは出会わない人に出会って、街での暮らし



がちよっと変わるような場所を作るというのが理想です。密集市街地の空き家や空き地だけでなく、団地の一角や廃校跡地など…今後増えるであろう使われていないスペースを活用するということに、農園というのは候補に挙がりやすいのではと思っています。他にも住宅地に点在させるとか、宿泊付きの貸し農園だとか、現在の形にこだわらず、形を変えて『みんなのうえん』を増やしていきたいです」

RPGのように次々と仲間が加わって、みんなの夢を実現していく「みんなのうえん」。初めは農業のことは1ミリも知

らなかったと話す金田さんでしたが、現在は初心者向けに自ら野菜作りのサポートもされています。金田さんの取り組みは、これからも農園の枠にとどまらず広がっていきそう。期待がふくらみます!

1. 工場や倉庫、住宅が立ち並びど真ん中にあります。隣は飲食店などが入った文化複合施設「千鳥文化」。2. 手作りのピザ窯。3. 醤油はプラスチックの樽で発酵します。一升瓶で約120本分できるそう! 4. 利用者のほとんどが初心者だそうです。厳格なルールはありませんが、農業と化学肥料は使用不可とのこと。5. 取材した第2農園には、6平米が31区画ほど。月5500円からレンタル可能。「経路上、自転車20分圏内で通う方が多いです」



北加賀屋の他にも寝屋川、神戸の湊川(2022年7月オープン予定)にも拠点があります。気になる方はホームページへ!

CASE 02 都市のスキマに“農”を仕掛ける

神戸の中心街からほど近い神戸市兵庫区の山裾のエリア。下町情緒溢れる古い街並みを抜けたところにある平野展望公園。ここで平野コープ農園という面白い取り組みが始まっています。管理事業者である有限会社Lusieの小泉寛明さんと、実際に農園運営を行っている平野コープ代表の井上磨子さんにお話を伺ってきました。

月に2回の活動時間前。ランチを広げるメンバーとゲートボールをする公園利用者のおじさん↓



小泉寛明さん↑



井上磨子さん↑



農園の半分はコミュニティ農園。イギリスのトッドモーデンの事例を参考にした。収穫時期は○や×でわかるようにしている。↑



平野コープ農園を始めることになった経緯を教えてください。

小泉さん：神戸市の方からアーバンファーマリングを市政に入れたいという話があり、僕たちもやりたいと持ちかけていて。そこで、市内の公園でモデル農園を作ることになりました。公園を探していると、Lusieで事務をしてきている磨子さんがちょうど「私の家の隣に公園あるで」と。この公園は一日にひとり来るかどうか、というような場所でした。こういった活動は人が使っていないところですのでのがいいという海外事例のヒアリングでの話も参考にしています。

井上さん：いろんな縁があって運営に関わることになりました。元々農園にも興味はありましたが、こうやってみんなでやるっていうのは初めて。ただ、コミュニティというキーワードは民泊やシェア

ハウスをやってきた経験から馴染みのあるもので、じゃあ何を真ん中にコミュニティを育むかといえば、農業や食かなあと。

いろんな動きが重なって実現したんですね！平野コープ農園のユニークなところは、貸農園だけではなく公園利用者が誰でも収穫できるコミュニティ農園を兼ねているところ。その理由はなんですか？

井上さん：利用者同士の関係や、外の人と利用者との関係を想定して野菜を介したコミュニケーショ

↓協力してコミュニティ農園の手入れをする運営メンバー。



↓約3m×1.2mの貸区画の中は自由。野菜の他にもエディブルフラワーなど。思い思いに楽しんでいる。



ワークショップで作ったパブリックスペース。談笑の場となったり、農家の方のレクチャーの場になる。↑

ンの場が欲しいなと考えました。運営メンバーの中には「誰でも採っていいというのはどういうこと？」と戸惑いを持つ人もいました。今は、コミュニケーションの実験場として、「ただやりたいから、楽しいからやる。」ということを大事にしようと話しています。そうしていると自然と人も集まってくるかなと。

外の人も関わる機会が持てるのがいいですね！利用者はどんな方が中心で、どんなコミュニケーションが生まれていますか？

小泉さん：ほとんどは徒歩圏内の近所の人。野菜ってコミュニケーションツールとして本当にちょう

どよくて、「トマトはどうやって仕立てているの?」とか「きゅうりはどうやって食べているの?」とか一緒にやっているからこそ喋れる。農家さんに相談できるというのもとても重要で、農家と街の人の交流の場にもなっています。

井上さん：みんな仲良くなっていますよ。一般の公園利用者の方も収穫をして、手入れも手伝いたいと申し出てくれたり。いつもゲートボールをしに来ているおじちゃんがイベントの時に子どもを見ていてくれたり、差し入れをくれたり…。運営を始めて1年間は手探りで大変でしたが、ある程度リズムは掴めたので、今後は外との関わりを増やして楽しみやワクワクを共有できたらいいなと思っています。今は摘んだハーブを使って料理教室をするイベントを計画中です。

こういった農園が増えることで、街は変わっていくと思いますか？

小泉さん：人口減少していきますからね。人気のエリアではそうはならないんですが、少し不便な立地では場所が余ってきます。我々としては、「駅から多少遠くてもいいやん。家賃も安いし緑も豊かやし、人が減るなら減るで畑のような拠点が増えると楽しくなっていくし」と思っています。

このあたりは磨子さんの運営するスパイシーハウスの他にもいくつかシェアハウスがあって、湊山温泉という素晴らしい温泉があります。また、神戸R不動産で仲介させてもらった長屋のオーナーが一部をコミュニティスペースとして開放していたりとか…そういった動きが横に繋がってきた感じもあります。ただ、これだけやろうと思うとお金もかかるし、運営にもパワーがいる。行政のサポートや補助金などサステナブルな仕組みができれば、街に潤いができていいなと。僕自身も今後、農園を通して経験したことをいろんなところでシェアしていけたらと考えています。

小さな農園が、人々を繋ぎコミュニティ形成につながる。土や緑とのふれあいが癒しをくれ、街にまた新しい可能性が芽生える。都市の「スキマ」を活用することで、ますます面白い場所になりそうです！

平野コープ農園 兵庫県神戸市兵庫区平野町 350 平野展望公園内 Instagram: @hirano_coop_farm

小さなアーバン ファームの 楽しみ方

「農業をやってみたいけど、場所も時間もないし…」という方へ。
いえいえ！楽しみ方はいろいろ。自宅でも、身近でも
簡単にできます！本号に協力してくださった皆さんに、
気軽な楽しみ方を教えてもらいました。

キッチンでできる再生野菜は定番！
根っこ付きのネギや小松菜は水につけておくと
永遠に再生し続けます。にんじんのヘタを
つけておくと出てくる葉っぱは
かき揚げにオススメです。



タイム、バジル、パセリ、
ミントなど…いつものごはんに
ちょっと足すだけで楽しい気分。忙しい人には
室内で水耕栽培でも育てられるハーブが
オススメです！

野菜って食べられるだけじゃなくて実は
カワイイ。パクチー、セージ、菜の花などは
花としても飾っても素敵。多肉植物と並べて
白菜を育てているという強者も。



そのへんに生えている菜の花や
カラスノエンドウも、わりと食べられるそうです。
えっそれって農業？のツッコミは置いておいて、採る場所には
十分気をつけて。食べる際は専門家の指導を仰いでくださいね。



CASE 03

ようこそ、農機具小屋の世界へ

京野菜の7割を栽培する農業の町・亀岡市。トンネルを抜けると、電車の窓に広がる一面の畑が印象的です。そこにポツポツと点在する農機具小屋を発見・収集していくうちに、「小屋の本」まで出してしまったという辰巳さんたち農小屋学会のメンバー。農機具小屋の収集って何？ そもそもなぜそこに注目を!? 聞いていくうちにわかったのは、彼らが路上観察を楽しむプロフェッショナルだということでした。

農機具小屋の写真を集めたきっかけは？

ヤマサキ (以下、ヤ)「辰巳くん小屋の写真を見せてもらって、『おもしろいな、これ集めようや』ってゆるいノリで始めました。安川さんたちに出会って、建築的な目線も入れてもう少し面白がってみよう」と

辰巳 (以下、辰)「二人で時間を見つけては調査して、安川さん・富吉さんに報告しながら亀岡全土を回りました。『小屋の本』に載せているのはごく一部で、自分たちがいいなと思った小屋だけでも400はあります。毎日が発見の連続で、『今日イチやな』がどんどん更新されていきました(笑)」

安川さん (以下、安)「二人が送ってくる写真を楽しみにしていま



↑
左下：辰巳雄基さん
右下：ヤマサキエイスケさん
「かめおか霧の芸術祭」に参加。
(辰巳さんはプロジェクトディレクターとして企画に携わる)。二方とも小屋以外に路上観察や石ころなど、収集対象は多岐にわたるそうです。

真ん中：富吉美穂さん
右上：安川雄基さん
合同会社アトリエカフェを運営。
「小屋の本」では専門家の視点で農機具小屋を分析しています。

2020年に出版された
『小屋の本 霧のまち亀岡からみる風景』。
広げると小屋の形になってカワイイのです。
↓

←
「小屋の本」より「木陰のオアシス」。
亀岡の景色もあいまって、オアシスのような清涼感あふれるたたずまいです。
安川さんは「何より建築主の考えていることが露骨に見えるところが良い」と絶賛しています。ひとつひとつの小屋にユニークなタイトルがつけられているのも見どころ！

した。視点は違えど、『これが面白い』というポイントはばっちり共有していて」

富吉さん (以下、富)「スライドで写真を見ながらキャッキヤしてたよね」

4人とも、「面白い」の感性が近かったんですね。

富「でも、その面白さは言語化できるものではない気がしています」

安「僕は建築的な視点で、小屋がどういうふうに作られているかなどを想像して楽しめますが、辰巳さんたちはまた違う視点で」

辰「僕たちは小屋を人に見立てて、想像で楽しむことが多いかな。中身とか、どんな人が建てたかとかはそんなに重要ではなくて。小屋そのものの立ち姿から、いろんなことを想像する余白そのものを楽しんでいるんです。実際に持ち主に会ってしまうと、想像とギャップがあったりして…それはあまり埋めたくないですね(笑)。季節によって、また時間帯によって小屋の見え方はどんどん変化していきます。それは住宅にはない特徴だと思います」

安「家や車と違って、小屋には『きれいに保ちたい』という欲がない。無自覚かもしれないけど実験的に感じられる。それは本来的なもののづくりの欲としてあるべきだと思っています。農機具小屋建築は住宅ほど法的に縛られていないので、好き放題やっているのを見るのが楽しいんです」

小屋をきっかけに、思いがけない出来事もあったとか。

辰「持ち主が畑をやめてから放置されていた小屋があつて。その小屋を借りて、持ち主のお孫さんと新しいスペースに生まれ変わらせるという活動をしていたら、周りの子どもたちが集まってきたんです。すると、小屋も生き生きしだしたように見えて。そんなふうに、未来をつくる子どもたちと一緒に、小屋含め畑などの活用法を考えていきたいなという思いはありますね」

ヤ「自分で自分の周りのことを作っていける場所や機会が減っているので、自由になんでもできる場を増やせられたら良いなと思っています。その代表例に、小屋があるような気はしています」

「小屋の本」の出版から2年経ちますが、変化はありましたか。

辰「『やさい畑』という雑誌で連載をさせていただくことになり、新しい小屋も調査を続けています。農地改革の余波を受けて無くなってしまった小屋や、使われなくなった小屋が植物に囲まれて見当たらなくなったりする場合もあります。手作り感が魅力だった小屋に外壁が作られて小綺麗になってしまい、ちょっと残念…なんてこともあります(笑)。お金をかけず、頑張って作れる範囲のものを作ろうとした小屋が自分にとっては一番魅力的なので」

富「本を読んだ友人から、『毎日の通勤ルートに小屋があったことに今まで気づいてなかった！通勤途中の楽しみが増えた』と連絡が来ました。小屋の存在を知るだけで、身近な日常の見え方も変



↑無くなってしまった「ローング小屋」。



↑「りぼんちゃん」。扉がピンクのリボンで留めてあり、なんともいじらしい。



↑「シースルーック」。



取材協力：KIRI CAFE



「小屋の本 霧のまち
亀岡からみる風景」はこちらの
サイトから購入可能です。

わっていくんですね」

安「自分たちはもともと、日常の中に意味を見出すとか、路上観察的なことに興味があるので、小屋の見方もそうなるのかもしれない。日々が楽しくなるように、という価値観は4人全員に通じるものがあるんじゃないかな」

辰「小屋の観察以外に、たとえば石ころひとつでも旅の目的になる。僕はいいよ何もないところで楽しめるようになってきました(笑)」

富「同じものを収集するだけで細かな違いがわかってきますよね」

ヤ「出先で気になったものとか、『なんとなく好き』だけでもとりあえず写真に撮ってフォルダに分けておくと、だんだん鼻が利いてきて解像度が上がります。そうなるとその辺に生えてる草ひとつでも面白くなってくる。雑草という名前の草はないですからね」

辰「名言だ(笑)。おたよりのコーナーとかも作りたいですね。いろんな人からこういう小屋見たよ、みたいな情報を送ってもらえたら面白いだろうな。地域による小屋の違いとか、まだまだ無限に楽しめそうです」

「同じ小屋の話をしていても、話すたびに違う発見がある」と話す辰巳さん。身近にあるのに意外とちゃんと見たことがない農機具小屋の世界…まだまだ奥が深そう！
帰りの田んぼの景色が、少し違って見えた取材でした。

“農”が

昨年、家族が所有する畑の横で野菜の直売所を始めた。といっても、作業小屋の前にコンテナをひっくり返して野菜を並べただけ。午前中は作業しながら店番をして、午後は無人で料金はポストへ入れてもらう。ゆるい直売所である。けれどその、人を集める力に驚いている。最初は珍しさから覗いてくれた近所の人が「おいしかった! 次は何できる?」と、リピートしてくれるようになった。作ったものが売れると嬉しい。美味しいと言ってもらえるのもっと嬉しい。

知人でも、貸し農園や郊外の畑を借りて野菜を作っている人が増えた。オーガニックな志向が強まった? コロナ禍で遠出しにくくなったから? それもあるかもしれないけれど、もっと本能に近い部分で土との触れ合いや身近で採れる野菜を欲しているようにも感じる。

数年前から建物を自分たちで作ろうという流れ

があったが、今度は食や農業を自ら手掛けようという流れができていないんじゃないかと思う。「住」のDIYの次はきっと、「農」のDIYだ! みんな、それがごく自然で楽しく、生活を豊かにすると気がつき始めた。

法的な後押しもある。都市部では生産緑地の指定を受けて税制優遇を受けている農地が多くある。2018年の生産緑地法の改正で、これまで

人を

禁止されていた生産緑地内での貸農園や農産物の販売施設、農業レストランの設置が可能になった。そういえば、近くで貸農園や直売所ができたこと心当たりのある人もいるのでは?

まだまだ都市の農業には可能性が隠れているように思う。農×不動産の新しい形もやってみたい。貸農園区画付きの賃貸住宅とか、家主のおっちゃんの野菜のサブスク付き賃貸、みかんの木付きのオフィスなんてのも面白い。農機具

未来妄想 vol.4

小屋のリノベーションもしてみたい。

話は戻って直売所。最初は遠慮がちだったおばちゃんたち。だんだん距離が縮まってきた。「帰りに取りにくるから置いて〜」は定番。「今日おでんやから大根採ってきて〜」「モロッコインゲン好きやから植えて!」「うちで採れたゆず売るわ!」という人まで(笑)。しまいには作業用のイスに座り込んであれこれ話し込んでいる人たちもいる。そのあまりの自然さに、「あれ、この人、親戚やったっけ?」なんて錯覚することすらある。そして、「しゃあないな〜」なんて言いながら、まあまあ楽しく時間が過ぎていく。ごく気軽に話したり、ちょっとぶつくさ言ったりしながら、帰って野菜をおいしく食べる。農

の拠点が増えていくことで街の暮らしがもっと自由で豊かに、楽しくなるといいな!

松下文子 まつした・ふみこ
アートアンドクラフト副社長。
大阪生まれ、ちよっとスイス育ち。
休日は西宮で直売所の
おばちゃんやってます。
宅地建物取引士・二級建築士。



惹きつける

すぐそこにある 島バナナ



はいさーい♪

SPICE MOTEL OKINAWAからお届けする沖縄通信です。

亜熱帯の沖縄では、南国らしいフルーツが自生しています。たとえば、アロエ、シークワーサー、



パパイヤなど。それらは民家の庭で育てられていることも多いです。

中でも、背が高くて街で存在感があるのはバナナの木。島バナナです。果実は輸入バナナより小さめで、熟れる前に緑色で売られています。沖縄では春や旧盆にお供えものとしても使うのでマストな存在。

沖縄
OKINAWA
通信
TUSHIN
イ

Vol.6

ところが、県内での流通量はバナナ全体のわずか1%ほど。意外でした。台風や害虫で生産が安定せず、島バナナ農家としての経営は困難とのこと。だったら、県民みんなが庭でバナナ育てちゃう？

ということで、私たちも島バナナの苗をホテル敷地内に植えてみました。1年で大人の身長まで、2年目の今年はなんと4mまで育っています。早っ! そして丸2年を迎えるこの夏、いよいよ初



めの収穫です。早く食べたーい。

庭からバナナを採って食べられるなんて、サイコーじゃないですか♪ ランドスケープとしてもバナナの木は南国らしい景観を作りますし。きっと本土の人たちはそんな暮らしが羨ましいはず、でしょ?

HAPPYなオルタナティブをあなたに

AC PAPER

発行日：2022年7月1日

発行人：アートアンドクラフト

編集：松下文子、吉田奈波

写真(表紙)：中村寛史

写真：坂下丈太郎(P2-6,11-14)、

辰巳雄基(P11-14 小屋の写真)

イラストレーション(P9-10)：北林みなみ

デザイン：一野篤

印刷：有限会社 修美社

製本：大竹口紙工株式会社

[株式会社アートアンドクラフト]

大阪本社(オフィス&ショールーム)

550 0003 大阪市西区京町堀 1-13-24-1F

電話：06 6443 1350

神戸事務所

650 0003 神戸市中央区山本通 1-7-15-2D

電話：078 231 1008

沖縄事務所

901 2311 沖縄県中頭郡北中城村喜舎場 1066

電話：098 975 8090

営業時間：10:00-18:00 水日祝休

一級建築士事務所、宅地建物取引業、建設業、古物商許可

均質化されていない住まい

あたらしい都市居住のスタイル

Arts&Crafts

あらたな視点で再発見！

不動産のセレクトショップ

大阪R不動産

— REAL OSAKA ESTATE —

セレクト型リノベーション

TOLA

renovation with pre-selected design system by Arts & Crafts

いつか観たロードムービーの世界へ

スパイスモーターホテルオキナワ



SPICE MOTEL

「農」の形はいろいろですが、どれも

みんな美味しく食べられるって

いうのがいいよね！

これからどんな広がりを見せるのか

楽しみです！

編集後記

かっこいい農業、身近な農業、

本格農業…

「農」の形はいろいろですが、どれも

みんな美味しく食べられるって

いうのがいいよね！

これからどんな広がりを見せるのか

楽しみです！